

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-134	12-324	慶應義塾大学
題名（原題／訳）		
<p>Randomized trial comparing computer-delivered and face-to-face personalized feedback interventions for high-risk drinking among college students.</p> <p>高リスクで飲酒する大学生へのコンピュータによるまたは対面の個人的フィードバック介入の無作為比較試験</p>		
執筆者		
Wagener TL, Leffingwell TR, Mignogna J, Mignogna MR, Weaver CC, et al		
掲載誌		
J Subst Abuse Treat. 2012 Sep;43(2):260-7. doi:		
キーワード		
介入試験、大学生、コンピューター		
要 旨		
<p>目的：</p> <p>本研究は同一のフィードバックを使用し動機づけ面接をする 2 つの短期個人的フィードバック介入（PFI）の有効性を評価し、高リスクで飲酒する大学生の飲酒量を減らしアルコール関連問題をコントロールの状態まで減らすことを目的とする。</p> <p>方法：</p> <p>学生（N = 152）にビデオ・インタビュアーによるコンピューターによる PFI、生のインタビュアーによる対面 PFI、総合的な評価の状態、または最低限の評価のみの状態に無作為に割付けた。</p> <p>結果：</p> <p>治療後 10 週間で、対面 PFI は広範囲の評価と最小評価のみの条件と比較して、週間飲酒量とピークおよび典型的血中アルコール濃度を有意に低下（d 値；0.32 から 0.61）させた。コンピュータによる PFI では、効果の大きさはコンピューターによる介入を使用している他の研究（d 値；0.20 から 0.27）と同等であったが、グループ間の有意差は明らかではなかった。</p> <p>結論：</p> <p>対面で PFI をおこなうことが大学生のアルコール消費の減量を助けることが示唆された。コンピュータによる PFI であるビデオ・インタビュアーは、有用ではあるが、必ずしも生のインタビュアーの完全な代りにはならないことが示唆された。</p>		